

平成18年度 第3回市民活動サポートセンター運営委員会 会議録

平成18年10月19日(木) 18:30~20:00

横須賀市立市民活動サポートセンター

出席委員 9名……柴崎、井上、小野、角田、佐藤、鷹野、増田、増淵、有森

事務局 4名……YMC Aコミュニティサポート 安田、細田

市民生活課 小座野、堀井

1 報告事項

次第に沿って報告を行った。

2 審議事項

(2) のたろんフェア参加団体募集の締め切りを22日まで延ばすことを了承した。

[意見概要]

◆ 市民協働推進セミナーについて

(事務局・指定管理者)

アンケートの結果を見ると、参加者からはセミナーの内容は評価を受けたが、主催側としていかに参加者を増やしていくかということが一番大きな課題であるということを感じた。

(事務局・市民生活課)

なかなか参加者が集まらないが、ノウハウを蓄えていく時期であると考え、今後も継続していく。

(増田委員)

退職してから年金をもらえるまで数年あるので、まずは自分の生活を立て直す時間が必要になる。すぐに社会貢献を考える人は少ない。新聞のアンケート結果でも、定年後関心のある事は、まずお金、次に健康。落ち着いて周りを見渡す余裕ができてからボランティアを考えるようになる。

(事務局・市民生活課)

コミュニティビジネスの視点をいれたり、公民館と連携して、各地域で退職者の受け皿作りをしていったりすることも考えられる。

◆ 市民協働推進フォーラム(おとば)について

(事務局・市民生活課)

参加団体20を目標にしているが、今日現在応募は10団体。応募締め切りが21日なので、今後は昨年参加した団体等へ直接呼びかけをしていく。

(事務局・市民生活課)

昨年参加した団体だけでなく、団塊世代の方たちが関心の高い分野の団体を勧誘してはどうか。

(増田委員)

いわゆるボランティアや社会貢献性の高い団体だけではなく、趣味的な活動も入れたほうが良い。趣味的な活動の方が入りやすいし、そこから公益性のある活動に発展していくこともある。

(柴崎委員)

企業訪問の反応はどうか。

(事務局・指定管理者)

昨年も企業訪問をしたのでイベントの趣旨が理解されている。企業側も興味を示していて、こうした団塊の世代向けの催しに関心があるようだ。企業訪問をしてどの程度の集客があるかは昨年調査していないので未知数だが、顔の見える関係作りは大切だと感じた。

(井上委員)

団塊の世代は、会社の研修などで退職後にどうすべきかを早い時点から考えている。活動分野として趣味や社会貢献ばかりではなく、生活に直接密着したことをしている団体にも参加してもらって選択の幅を広げてはどうか。やはり現金収入など身に入るものがある方が興味をひくだろう。

(事務局・市民生活課)

市内の NPO 法人では、介護保険事業以外で「サポート海の手」のように移送サービスで自衛隊 OB の再雇用の受け皿となっている団体や、「産業クラスター研究会」のように産業界で活躍していた方たちがノウハウを持ってコミュニティビジネス的な展開をし、自分たちの生活の糧にするという考えを持っている所もある。単にボランティアだけでなく、市民企業という視点も入れたら良いかもしれない。

(角田委員)

昨年は 22 団体が参加したのに、今年はなぜ半分程度しか集まらないのか考えるべき。昨年と比べると交流が主となっているので、その点をもっと PR したほうが良い。趣旨を理解していても、団体自体がどれだけ関心をもてるか、市民活動団体としてメリットがないと参加しない。

(柴崎委員)

前回と違って、ステージ上で行う 3 分間 PR は効果があると思う。また、交流会の時間もだいぶ長くなっている。その点をもっと団体に PR すべきかもしれない。

(事務局・市民生活課)

サポートセンターの運営なので市民活動や社会貢献性を求めている。ボランティアの視点とコミュニティビジネスの視点の両面を紹介できれば良いのではないかと思う。

◆ のたろんプロジェクトについて

(事務局・指定管理者)

『高校生・大学生プロジェクト』では、11 月 19 日に「ヨコスカ市民活動合コン（スカコン）」と称して、事前アンケートで若者の関心が高かった 10 分野の市民活動体験ができるイベントを開催する。『出張サポセンプロジェクト』では、開国祭やわんぱくフェスティバルなど市内の様々なイベントに出張している。最近では「のたろんサンバ」の出前希望もあり、出来る限り協力していく意向である。また「サポセンリメイク」でロッカーの貼り絵が完成に近づいている。『協働の手引きプロジェクト』では内容が決まり、担当者が執筆中である。『のたろんフェアプロジェクト』は、後ほど議題にあがるので省略する。

(増田委員)

のたろんプロジェクト完成会はどうなったのか。

(事務局・指定管理者)

3 月中旬に予定している。

◆ 市民公益活動団体について

(柴崎委員)

削除団体にある横須賀市青少年相談員連絡協議会等の「統合」とはどういう意味か。

(井上委員)

青少年育成プランによって整理されたようだ。いままでバラバラに活動していた「相談員」や「指導員」が「青少年育成推進員」に統合された。

(事務局・市民生活課)

全労済はデータベースとして登録をする必要があるか。例えば生活協同組合では社会貢献活動をしている福祉部会や環境部会等については認めているが、生協で食料品を売っている部分とは分けている。もし登録するのであれば、全労済の保険事業と社会貢献活動を切り分ける必要がある。

(事務局・指定管理者)

公益性の資料は全労済の保険事業ではなく、全労済が行っている助成金などについてのものだったのでその部分を認めることとした。活動内容のところに資料にあった助成金の部分を加えて記載する。

(鷹野委員)

「のっばらの会」には公益性がないが、サポートセンターは公益性がなくとも利用できるのか。

(事務局・指定管理者)

趣味の団体も登録できる。公益性があれば予約などの優先利用ができる。

◆のたろんフェア2007について

(事務局・指定管理者)

9月1日から実行委員会が立ち上がり、分科会に分かれて検討を進めている。今回の特徴としては企画から実施までボランティアを中心に行っているところである。今回は実行委員だけでなく参加団体も一緒に街づくりをしていくところが今までと一番違う。また、レイアウトではフリーマーケットと展示を分けて、フリーマーケットは会場の入口付近に集め、展示は展示でまとめて街の雰囲気を出していく。さらに100団体参加を目指し、パネル展示の大きさが去年の半分になる。参加応募団体数は今日現在、ミニ展示も含め51団体で昨年と同じくらいの参加数である。

(小野委員)

去年は52団体参加で展示に1団体パネル1枚使えた。もし参加団体が去年並みでこれ以上増えなかったら展示の大きさは変わるのか。

(増田委員)

外枠は実行委員会で決めるが、街の運営は団体が行う。フェアの参加の仕方は展示だけではなく、ステージなど様々な形がある。展示だけにこだわる必要はないように思う。展示は100団体集めるつもりで小さくしたが、参加団体の中には展示を大きくしたい団体、パフォーマンスに力を入れたい団体など様々である。展示を含め、街のレイアウトについては街の中で決めていただきたいと考えている。今年のフェアは街の運営が非常に重要。実行委員は参加団体メンバーでもある方が多いので、様々な形で街の専任アドバイザーとしてサポートし、全体のつなぎを担ってもらおう。何をやるかは出来るだけ街の中で決める。今までのように、全部スタッフがつくってそこに入るだけの参加の仕方ではなく、知恵も力も出す参加の仕方をする。ミニ展示はフェアの期間中、サポートセンター内に掲示してあるポスターが見えなくなるので、その代わりにポスターのようなもの。ミニ展示で当日来られなくても、街の運営などには参加してもらおう。予算はそれぞれの街に配分するが、良いアイデアがあればどんどん提案してもらい、街同士で話し合っ分けて分配するようにしたい。

(事務局・市民生活課)

展示の大きさが街の中で協議をして変わるのであれば、事前に企画書や募集要項にその旨が明記してあれば良かった。展示のスペースはパネル下部分も使えるのか。

(増田委員)

去年と比較すると展示の大きさは半分になるが、100団体を目標と掲げているので最初から展示の大きさを変えられるとは書けない。AタイプとBタイプで使い勝手は違うかもしれないが、パネル下スペースは使っていただいて構わない。

(小野委員)

参加団体の代表者は会員に説明する際に募集要項を使って説明するので、補足事項をはっきりさせ要項をもっと詳しくしてほしい。

(柴崎委員)

団体説明会までに、もっと詳細な説明資料を作してほしい。

(佐藤委員)

最終的に51団体だった場合、展示は広がるのか。

(鷹野委員)

目標の100団体に近くなるまで団体を募集し続けるのか。締め切りをどうするか決めておくべき。団体側は割り振りを考えて展示をつくるから早い段階で決めた方が良い。

(増田委員)

100団体は、市制100周年にちなんだ目標。より多くの団体に参加してほしいが必ずしも100団体でなければいけないということではない。前回より増えれば良いと考えている。出来れば、締め切りを今週末22日まで延ばせればと考えているがいかがか。

(柴崎委員)

締め切りを延ばすのであれば全登録団体に知らせるべきだが、1,2日の延長なら事務等に支障がなければ構わないのではないか。

(各委員)

同意

(佐藤委員)

各街の参加団体の構成はどのようになっているか。

(事務局・指定管理者)

街の内訳は「安心の街」が7団体、「ふれあいの街」が25団体、「文化・ITの街」が8団体、「すくすくの街」が11団体である。展示やレイアウトなど、今まで不確定な部分も団体数が決まれば、確定する部分が多いので団体説明会までに詳細な資料をつくって配布する。

以上